

Berlin Report

September 2025

CONTENTS

- * Project 1: Sphere Tim Raue
- * Project 2: Galerie Judin & ZEIT Café

1. Sphere Tim Raue

Project Overview

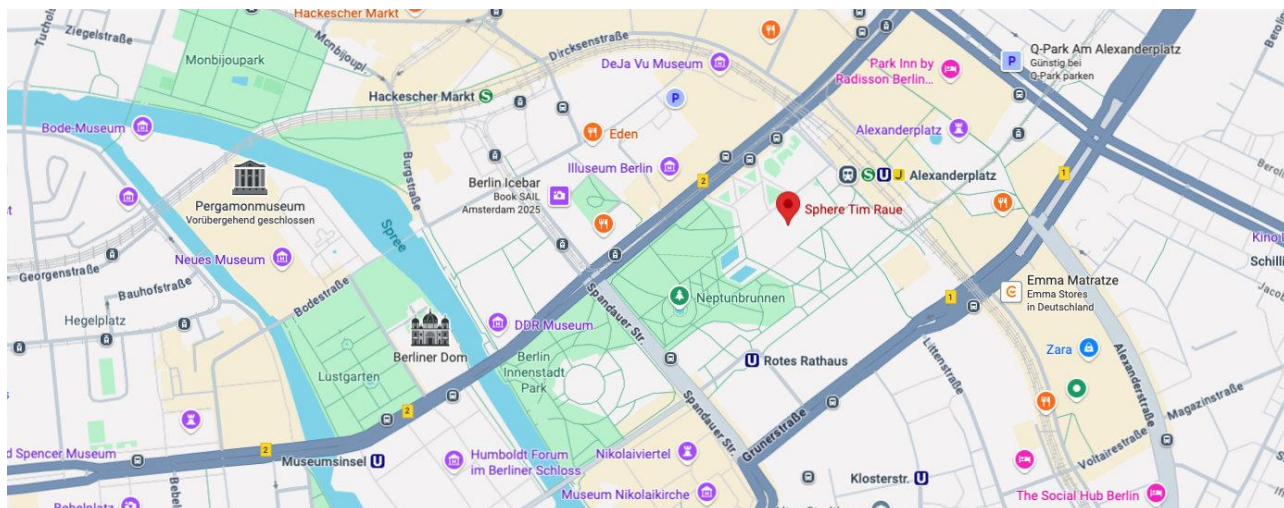
1969 年、当時は東ドイツの首都だった東ベルリンに造られた 220 メートルの高さのテレビ塔。銀色に輝く球体の中央には展望台と展望レストランがあり、30 分に 360 度を一周してベルリンの街を一望できる人気アトラクションとなっている。この展望レストランが、スターシェフ Tim Raue を迎え、ベルリンで“最高”のレストラン「Sphere Tim Raue」としてリニューアル。大きな話題を呼んでいる。

ベルリン生まれではあるが、東ではなく西側のアンダーグラウンドなシーンで育った Raue。東ドイツという国のシンボルだった場所をリスペクトして、料理は東ドイツの昔ながらの素朴なメニューを中心にしているが、インテリアは西ベルリンらしくグラフィティ風のディティールも取り入れた。改装を担当した Dittel Architekten はモノリシックな建築を尊重しつつも、居心地のよい現代的な内装にブラッシュアップするよう心掛けたという。店の空間は同心円状の幾何学的な構造を反映し、3つのゾーンに分けられる。外側のガラスファサードの回転リングによる展望・滞在空間は風景や光が目まぐるしく変化することを意識。サービスが行き来する中央のアクセスゾーンは動かないので、照明は最小限に抑えて深い青のカーペットを敷いて、視覚的な静けさを演出した。ワインセラーやバーカウンターには放射線状の空間を強調する遮光パネルをはめ込んで、あえて天井は低く。色調は 1960 年代のオリジナルでいまの流行色でもあるモカブラウンを生かすように深いブルーを組み合わせた。レトロなガラスのオブジェやテーブルランプはそのままに、クラシックなデザインの皿を特注。多彩な味が対立・融合する Raue の料理のように、過去と未来の対比を取り入れた空間演出となっている。

Project Details

1. Client: Sphere Tim Raue
2. Type of Business: Gastronomie
3. Open Date: 03.06.2025
4. Location: Alexanderplatz, Panoramastraße 1A, 10178 Berlin
5. Size: 240 seats, 420 m²
6. Architect: DIA Dittel Architekten / Frank Dittel, Gesche Falkenburg
7. Website: tv-turm.de/sphere-tim-raue

Location Map





上：思ったより早く回転している座席部分（左）中央のアクセスゾーンとの境目は金色で低い段差をつけて視覚的に強調し、転倒防止効果も。

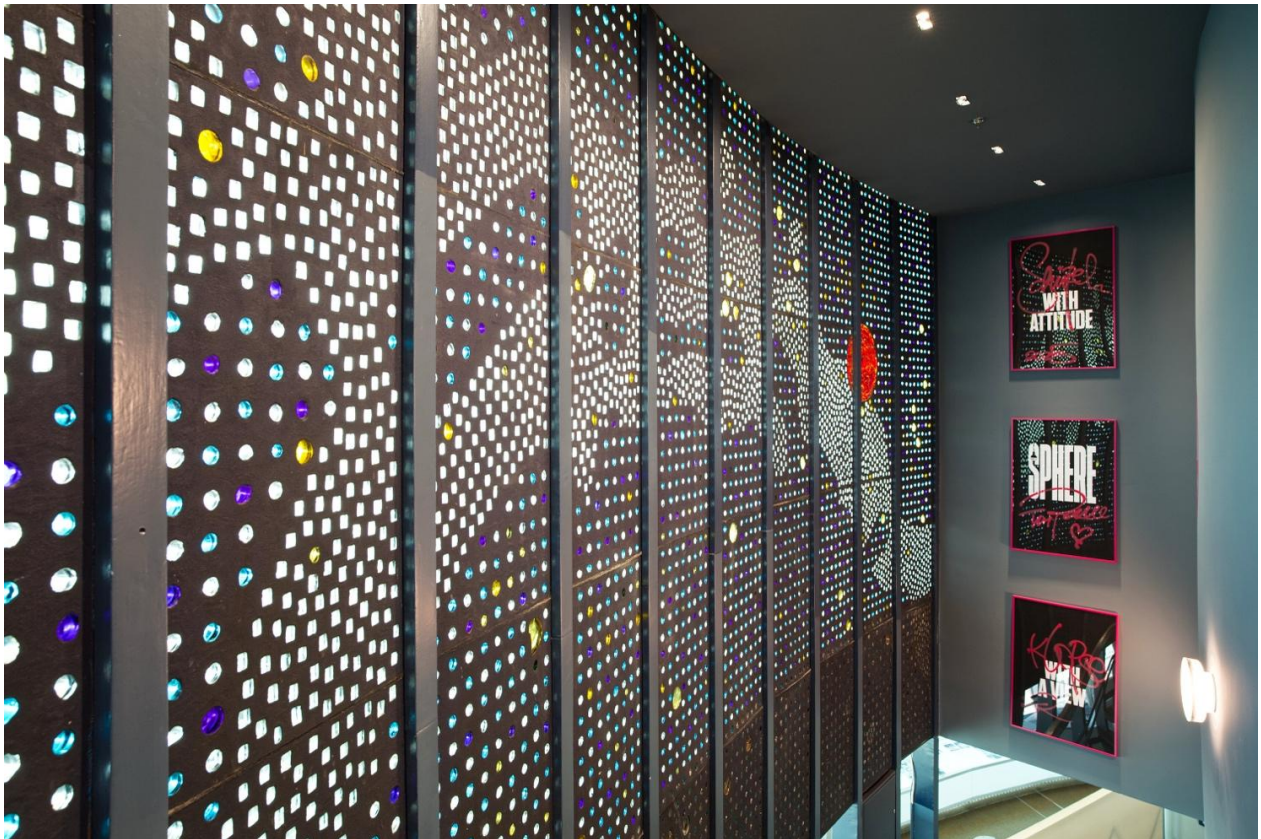
下：下階のバーカウンター。床を高く天井も低くし、遮光パネルの形状でも、放射状に広がる空間の形状をアピールしている。





上：東ドイツ時代のガラスのオブジェ。

下：お客は下階のエントランスから細い階段で客席へと誘導される。そこここにグラフィティ風の細部が





上：テレビ塔のエントランス。四方に走る階段や照明も当時のまま。

下左：ASA SELECTION に特注したクラシックな食器。照明は当時のオリジナル。窓にもグラフィティが。

下右：Raue こだわりのグラフィティは、スタッフのユニフォームにも。自らスプレー缶を手にもいろいろな場所に描き込んだ。



2. Galerie Judin & ZEIT Café

Project Overview

1956年に造られたShellのガソリンスタンドがギャラリーとカフェに生まれ変わった。賑やかな大通りと高架鉄道に面した立地にも関わらず、緑の中の一軒家のような安らげるスペースが実現され、人気を集めている。

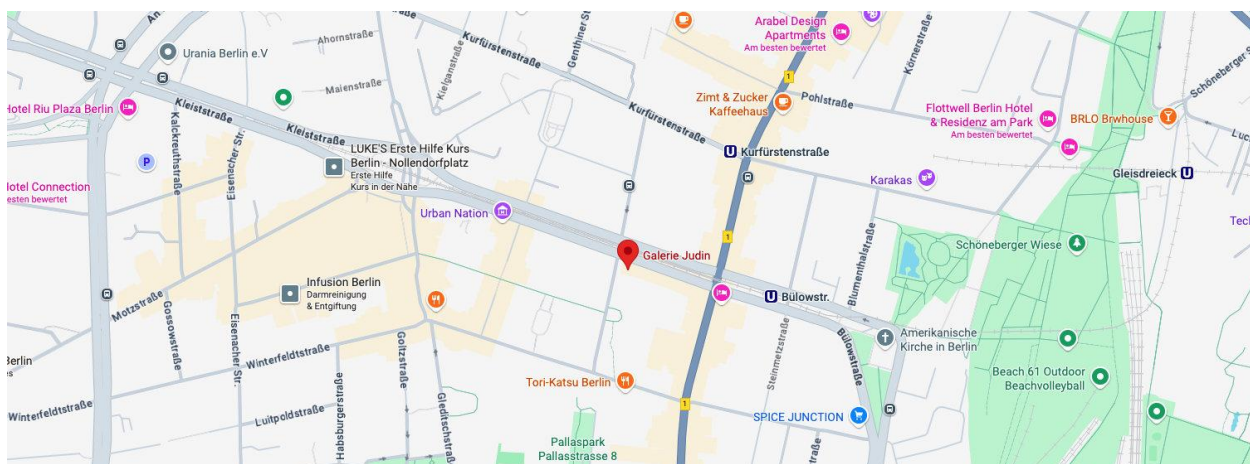
ギャラリストでコレクターでもあるJuerg Judinが、1980年代に打ち捨てられたままになっていたガソリンスタンドを発見したのは1990年代のことだという。建築的な魅力を感じ、ここにギャラリーと自然とアートに触れることができるような交流の場を作るというアイデアを思いついたそうだ。道路に開かれていたガソリンスタンドの敷地には2階建てのギャラリーを増築し、スタンドの建築の周囲三方は壁で囲む。道路側には堀のように池を作って1950年代から植えられている松を中心に背の高い木々や草を植えて視界を遮断することで、周囲の喧騒を遮り、オアシスのような空間を生み出すことに成功した。ガソリンスタンドのキャノピーがあたかも公園の東屋のようだ。

1950年代当時の外観が完全に復元されているガソリンスタンドの店舗部分は、ドイツの週刊新聞ZEITとコラボレーションしたカフェになっている。廊下の天井に届く本棚にはアートカタログが並ぶが、庭に面した大きなガラス窓を生かすように、店内の空間に置かれているのはHoffmann Kahlejs Designの座り心地のよい椅子とシンプルなテーブルのみ。スタンドの建築に使われている赤を基調に、極力色もデザインもシンプルに抑えた。アートオブジェのような巨大な天井のシャンデリアだけが唯一のアクセント。これも1950年代、フランクフルトのボールルームのためにデザインされたものだ。入口から足を踏み入れた時だけ、大きなガラス窓から煌めく光が目にとまるが、天井の高い位置にあるので、実際にカフェに座っている時にはほとんど気にならない。本を読んだり、アート作品を眺めたり、人と会話を交わしたり、この空間で過ごす時間に集中して欲しいというJudinの希望が形となったインテリアだ。

Project Details

1. Client: Juerg Judin / Shell AG
2. Type of Business: Galerie, Gastronomie / Gas station
3. Open Date: 26.04.2025 / 1956
4. Location: Bülowstrasse 18, 10783 Berlin
6. Architect: bfs d / planbb bakel Landscape architect: Guido Hager

Location Map





もとからあった樹齢50年以上の松の木を中心に桜や背の高い竹が植えられ、池には錦鯉が泳ぐ。どこか日本風の庭がガソリンスタンドの建築に不思議とマッチ。スイスの有名なランドスケープ建築家 Guido Hager は感覚を刺激し、かつ周囲に溶け込むような庭づくりで知られる。





上：印象的なシャンデリアは、Martin Elsässer と Ernst May が 1950 年代にデザイン。下左：カフェに続く廊下は本アートブックコーナーに。
下右：増築部分。透光断熱材を組み込んだ二重構造産業ガラス製ファサードは柔らかく光を反射し、レトロな建物や庭の雰囲気を変えない。

